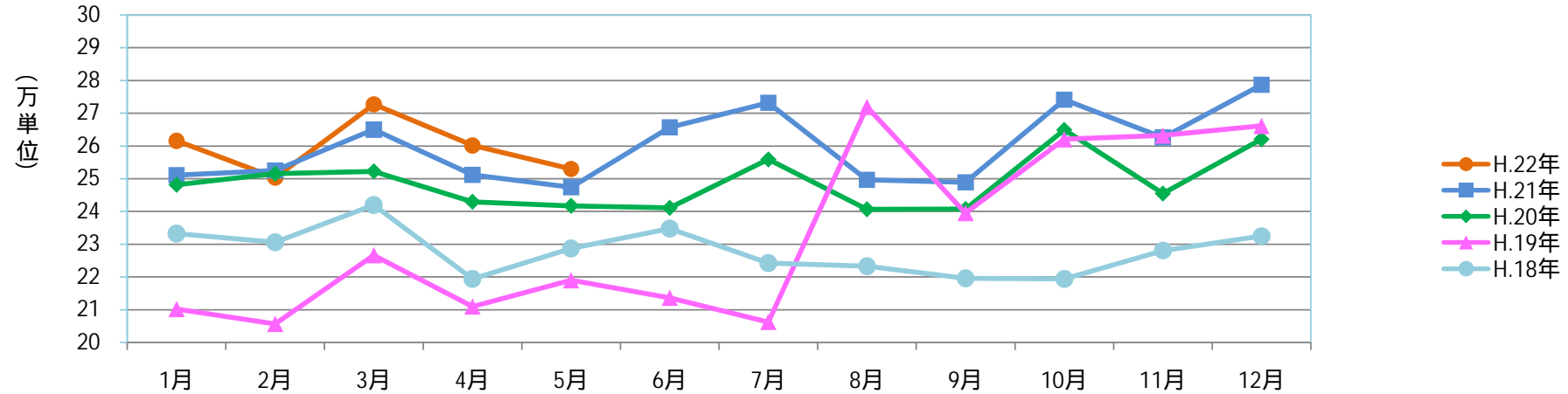


輸血用血液製剤の月ごとの供給量について、平成18年の供給量を100%として示した。

図1 月ごとの FFP 供給量(単位) (平成18年 1月 ~ 平成22年 5月)



平成18年1月から平成22年4月までの、新鮮凍結血漿(FFP)の月ごとの供給量(単位)を「図1」に示した。
 平成19年1月16日採血分の全血から、保存前白血球除去を実施して、新鮮凍結血漿 - LR(FFP-LR)を製造している。なお、FFP-LRの容量は、それまでの新鮮凍結血漿の1.5倍になっている。また、6カ月間の貯留保管を行って、平成19年8月から供給が開始された。
 平成19年の供給量は、7月まで平成18年同月を下回っているが、8月から大きく増加して、平成19年8月以降の供給量は、FFP-LRの供給が開始され、供給量が増大した時期の次年同月である平成20年8月、11月、12月と平成22年2月を除き、前年同月を上回っている。

図2 FFPの供給本数(平成18年 ~ 平成21年)

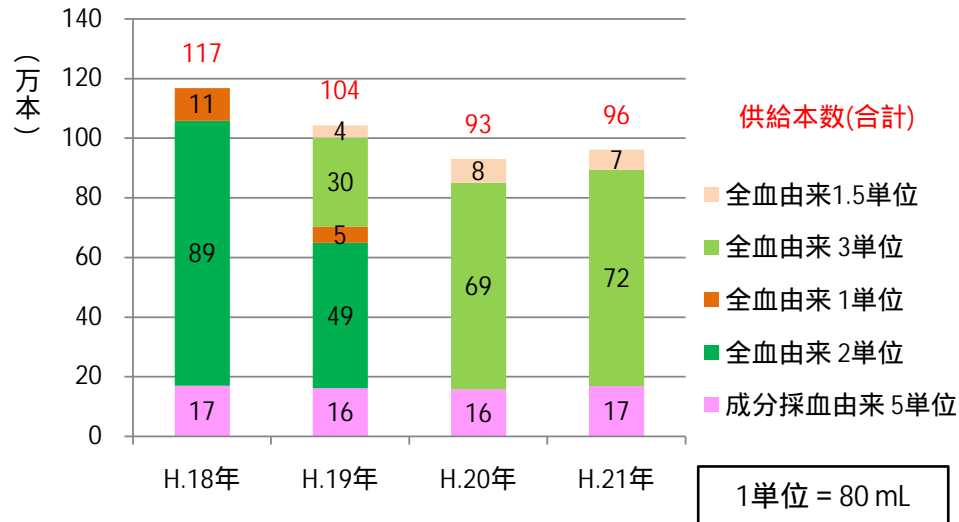
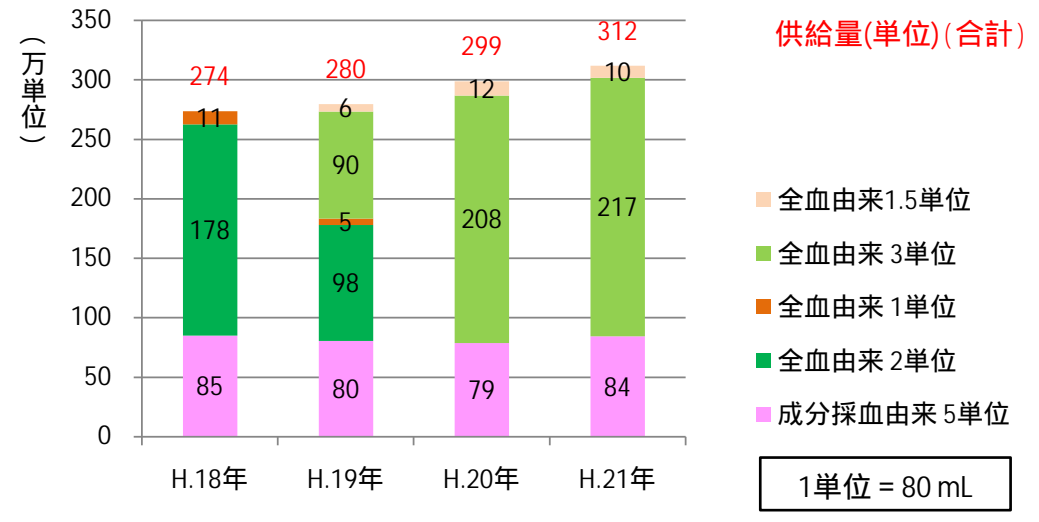


図3 FFPの供給量(単位)(平成18年 ~ 平成21年)



FFPの平成18年から平成21年までの、年次供給本数を「図2」、供給量(単位)を「図3」に示した。
 年次供給量(単位)は、平成8年から平成18年まで、前年供給量からの減少が続いていたが、平成19年以降は増加している。
 年次供給本数は、FFP-LRの供給及び切替えにより、平成19年、平成20年では減少している。